

2019年3月期 第2四半期 決算説明会での主なQ&A

Q：SE、上期、自然災害から受けたインパクトや、関空の件（浸水）のことなど、もう少し詳細を教えてください。

A：上期、7月発表予想比、売上が120億円下がった（下期へシフト）うち、半分以上は関空浸水影響、残りは西日本豪雨関連によるものです。営業利益に関しては、プレゼン資料（p. 4）どおり、約80億円の減益は、1) 減収起因（50億円程度）と、2) 一時的調達コスト上昇による変動費率の悪化など（30億円弱）による（固定費は想定より圧縮、利益押し上げ要因に寄与）ものです。

Q：SE、自然災害は理解するも、売上に対する調達コストの上昇幅が大き過ぎるのでは？

A：想定していた原価低減ができなかったことに尽きると考えています。但し、サプライチェーンを見直し、新棟（滋賀県彦根の新工場、12月完成予定）に移行する意味では、悪い踊り場ではないと捉えており、SE・下期予想の営業利益率約18%強に向かっていることは間違いありません。

Q：SE、固定費増加は、下期も続くのか？

A：前回（7月の1Q決算時）説明しましたとおり、売上増に伴う人件費、ならびに、新棟建設に伴う減価償却費の負担については、今期中、影響します。製造原価高という意味では、上期の自然災害の影響によるコスト改善の遅れは、3Qも影響は若干残ると見えています。

Q：SE、受注について。2Qで増加（580億円 1Q：506億円）したが、（昨年のように）過去最高レベルまでに戻ることは可能？また、来年をどう見ている？

A：当社の取り扱う装置の特性から、他社のSPEメーカーのように、WFEを語るべきでないと考えますが、7月予想から変化なく、「CY2019も\$50Bn以上」であろうと見えています。また、下期に入り、年度末までの受注のビジビリティが徐々に上がってきており、受注残高を考えましても、来期に向けて堅調に推移すると見えています。

Q：SE、メモリーは堅調とのこと（プレゼン p. 10）。ちなみに、将来のDRAM微細化投資でも、既に決まっている量産投資（現状、延期中の戻り）でも、恩恵受けるのか？（当社にとっては、どちらが好ましい？）

A：微細化、量産への追加投資であっても、当社は恩恵を受けます。

Q：SE、米国政府が、中国のJHICC社に輸出規制を出したが、その影響は？

A：本日入ったばかりのニュースですので、現状、どのぐらいの影響があるのかにつきましては、何とも申し上げられません。現時点では、粛々とビジネスを続けるのみだと考えています。

Q : SE、通期予想について。営業利益が(7月予想より)60億円下がる要因につき、プレゼン資料(p.4)のように、要因分解してもらえないか？

A : 具体的な数字は申し上げられませんが、既述の自然災害による一時的コスト上昇に起因するものが大半です。加えて、彦根・新棟の生産方式変更による移行時のコストアップも見込んでいます。

Q : SE、メモリーに一部調整局面とあるが(プレゼン p.10)、売上に影響があるということ？

A : メモリーについては、顧客の投資の期ずれなどは過去にもあり、お客さまによって多少デコボコするのは当然の流れと見ており、全体感ではあまり気にするレベルではありません。

Q : SE、ファウンドリー/ロジックが活発化(プレゼン p.10)の意味するところは、来期以降の(成長)カーブとどのように関連するのか？

A : 個々の会社の話はできませんが、ファウンドリー向けは、3Q以降も受注は上昇局面にあると見ています。ロジック向けも、おしなべて堅調(来期にかけても同様)だと考えています。

Q : SE、自然災害の影響について。リニアガイドなど、部品不足をよく聞くが、先の説明から、部材会社は被災したということか？どのような状況？

A : いくつかの部材が逼迫した状況は、昨年秋から続いています。調達先さまにはさまざまなお願いをしつつ、増産体制を取っています。上期は、自然災害の影響が大きかった反面、前期から続く高い受注レベル(前期は四半期に700~900億円近い受注高あり)に対応するため、納期を優先するばかりに、コスト削減活動がおろそかになったことも否定できません。

Q : GA、OEM分の減収については、OEM先の構造改革の影響か？

A : OEMについては、他社のことでもあり、詳細については控えさせていただきます。一方、当社の販社ルート(PODの主要製品)では、昨年比6~7割の伸びが見られ、早晚、回復するだろうと見えています。

Q : FT、下期予想(営業利益)を下げた理由は？来年の見方は？

A : FTの下期が極端に悪いと見ているわけではありません。FTは新規事業を抱えており、新規領域の売上は増加するも、利益的にはスケールメリットがまだ見込めないため、予想を下げました。具体的には、大型(G10.5など)や新規領域など、初号機のコストを下げられないものを見越した対応ですが、一過性のものと見ております。

Q : OT(その他セグメント)、赤字が増えているのはなぜ？

A : OTは、HDの新規事業関連ですが、まだなかなか立ち上がっていないためです。

以上